



宇土市建設業協会による 「住家の緊急修理」

令和8年熊本地震で、宇土市内でも多くの民家で屋根瓦が落下したり、屋根が破損したりするなど甚大な被害が出ました。宇土市建設業協会(浦本哲会長)には、宇土市をとおして、多くのブルーシート展張の要望が寄せられました。川口裕二災害対策本部長は「地元貢献のため、できるだけ限度額(56,400円)に収まるよう頑張っています。高額な修理費用トラブルに巻き込まれないよう注意して欲しい」と話されました。

この日、地震で屋根瓦が損壊した岩古曽町の民家を担当した村上産業の村上社長は、暑い中、屋根の上でのブルーシートの展張作業に汗を流していました。村上社長は「協会として、住家被害で困っている市民のみなさまがいっしょに、会員間で協力し合い、迅速かつ安全に対応していきたい」と話していました。



「ポケモンといつもいっしょ〜せいかつおうえんブック〜」を手にする園児と学童たち。

宇土エンゼル保育園で「ポケモンといつもいっしょ〜せいかつおうえんブック〜」を配布しました

令和8年熊本地震で被災した子どもたちの心のケアや生活支援に役立ててもらいたいとの思いから、(一財)ポケモン・ウィズ・ユ-財団より宇土市へ「ポケモンといつもいっしょ〜せいかつおうえんブック〜」が寄贈されました。この教材は、令和6年能登半島地震を機に、災害時の不安を抱える子どもたちに寄り添うために制作されたもので、ポケモンのキャラクターと一緒に心の安定や生活習慣を学べる内容となっています。8月12日(水)、宇土エンゼル保育園を訪問し、園児や学童へ配布しました。子どもたちは冊子を手にとるとすぐにページをめくり、楽しそうに内容を確認していました。パンダ組の古田愛流さん(6歳)は「シールやパズルもあって楽しかった。とても嬉しい」と笑顔で話してくれました。宇土市では今回の寄贈を受け、市内の保育所・学童クラブなど30ヶ所以上への提供を進めており、避難中の子どもたちにも受け取ってもらえるよう配布しています。



愛知県豊明市社協のキッチンカーが地震で支援 児童ら大喜び、かき氷に暑さ吹き飛ば

令和8年熊本地震で支援に駆けつけた愛知県豊明市社会福祉協議会のキッチンカーが、宇土小学校学童クラブと東っ子学童クラブなどを訪問、子どもたちにかき氷とフランクフルトソーセージをふるまいました。7月28日に発生した地震で、宇土市も大きな被害を受け、さらに連日の猛暑も重なっているだけに、かき氷とソーセージのプレゼントに子どもたちは大喜び。宇土小に近い宇土エンゼル保育園の園児たちも一緒に味わいました。同社協事務局の小野寺良夫次長(60)は自治大学校で2010年に光井市長と共に学んだ旧知の仲。「宇土市も被災したこと知り、とにもかくにも何かお手伝いをしなければとキッチンカーを思い立ちました。少しでも子どもたちのためになれば、幸いです」と話していました。



南三陸から届いたやさしさを宇土へ 災害ボランティアを支えた「つながるかき氷」

猛暑の中で復旧・支援活動に汗を流す災害ボランティアの皆さんへ感謝を届けようと、浦本晴美さんと宇土市シニアクラブの有志の皆さんが宇土市ボランティアセンターで「つながるかき氷」が振る舞いました。浦本さんが防災研修を通して交流を続けてきた宮城県南三陸町の「南三陸椿くらぶ」から、今回の地震を受けて支援金が寄せられたことをきっかけに始まったものです。「南三陸からいただいたやさしさを、今度は宇土で頑張る人たちへ」。そんな思いを込めて削られた冷たいかき氷に、活動を終えたボランティアの皆さんの笑顔が広がりました。